

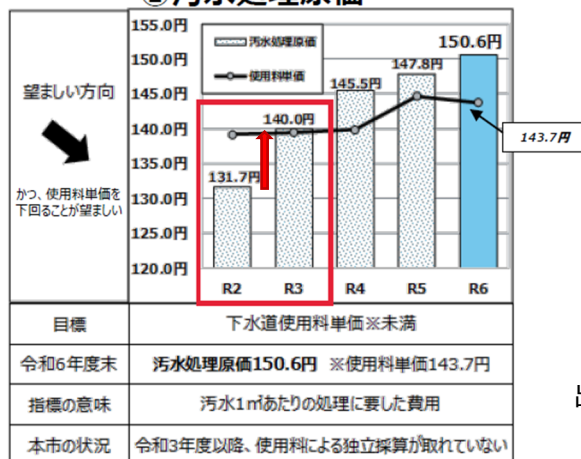
ご報告事項

令和2年度から3年度にかけて、汚水処理原価が大きく増えた理由をご説明します。

○令和7年度第2回審議会

「市川市下水道事業経営戦略進捗状況報告（令和6年度決算）」より

②汚水処理原価



出典元 【概要版】

2. 経営状況を示す指標

【令和2年度の汚水処理原価について】

$$\text{汚水処理原価 (円/m}^3\text{)} = \frac{\text{②汚水処理経費} \times 12 \text{ か月分}}{\text{①年間有収水量} \times \text{令和2年度は、13 か月 (回)}}$$

- ①年間有収水量の増加 : 下水道使用料について、県の水道料金と徴収を一元化した影響により、年間で13か月（回）の調定（請求）となった。これに伴い、下水道使用料の対象となる年間有収水量も13か月分となり増加した。
- ②汚水処理経費の推移 : 汚水処理経費は、例年同様に12か月分であった。
- ③汚水処理原価への影響 : 年間有収水量が13か月調定による増加により、令和2年度の汚水処理原価が低くなった。

③汚水処理原価の推移

